令和四年度

入学試験問題

総合学力テスト（作文）

（第二回）

注意

①先生の合図があるまで開いてはいけません。

②解答はすべて解答用紙に書きなさい。

③問題と解答用紙はすべて集めます。

修徳中学校

令和四年度　修徳中学校　入学試験問題〈総合学力テスト（作文）〉

（解答はすべて解答用紙に記入してください）

■次の文章を読んで、後の問に答えてください。

さて、子どもたちが最初に接する本が、なぜ字の本ではなくて、絵の本（絵本）でなくてはいけないかということについて考えました。そして、歴史的にみて人類がそうであったように、いわば人生の原始時代に生きる幼い子どもたちは、絵でものを考えている、だから、この時代の子どもたちには、抽象的な字の本ではなく、具体的に目に見える絵でものごとを示した本が必要なのだということを申しあげました。

しかし、よく考えてみますと、〝絵でものを考える〟のは、必ずしも子どもの時代に限ったことではないように思います。非常に高度に抽象化された数学の世界などは別かもしれませんが、わたしたちは、たいていのことは、頭の中で絵にして受けとめたり、理解したりしているように思います。

ふるさとの友人から「〇〇山の桜は、今、満開です」というたよりを受け取ると、頭の中には、たちまち花の様子が見えてきます。ネパールの山で、登山隊が遭難したと聞けば、すぐその光景が心に浮かびます。あるいは、本を開いて、「海の底に、人魚の王さまのお城がありました」とあるのを読めば、その情景は、ただちに心のスクリーンに映し出されます。

このように、わたしたちは、たいていのことを映像化してとらえています。特に物語や小説など、文学作品を味わう場合は、そうだといっていいでしょう。ことば（文字）を手がかりに、情景をどこまでよく映像化できるかということが、その人が文学をたのしむ際のかぎになるように思います。

ところで、その映像化を行なう際、わたしたちおとなは、一々、さし絵や写真など、視覚に訴えるものの助けを借りなくてもすみます。それは、わたしたちの中に、これまでにたくわえた経験や知識があり、それらを材料にして、自分で映像を生む能力を、わたしたちが身につけているからです。

しかし、経験や知識も乏しく、ことばもたくさんは知らず、自分で映像を描き出す能力も未発達の子どもの場合は、①そうはいきません。どうしても、具体的に、そのものを示してくれる絵に頼らざるを得なくなります。ですから、わたくしが、「子どもの時代は、絵でものを考える時代」だといったのは、もっと厳密に言うと、「子どもの時代は、ものごとを絵にして考えるとき、すでに絵になったものの助けを必要とする時代」だと言うことができます。

当然のことながら、わたしたちは、自分の経験に密着したものごとは、容易に絵にすることができます。幼い子どもでも、その子自身や、あるいはその子の飼っている動物などを主人公にし、日常生活の中で起こる事件だけを描いたお話なら、別に絵本になっていなくても十分たのしむことができます。

しかし、ものごとが、自分の直接の経験から遠くなればなるほど、それを絵にして心に思い浮かべることが困難になります。外国の話だとか、昔の話、あるいは架空の世界の物語などの場合がそうです。その場合は、単に自分の経験から得た知識だけに頼っていては、正しい映像を得ることができないからです。

けれども、わたしたちは、直接自分の知らない世界のことについても、何らかの映像を描くものです。ネパールに行ったこともなく、登山の経験がなくても、ネパールで登山隊遭難というニ

ュースに接したときは、わたしたちはわたしたちなりに、その場の情景を絵にしています。それは、わたしたちが、そのことについて、間接的に得た知識をもっているからです。つまり、これまでに人に聞いた話、新聞や本で読んだこと、見た映画等々の記憶が、わたしたちの中にあるからです。そして、もし、わたしたちが描いた映像の源をつきとめることができたとしたら、非常に大きな部分を、過去に見た写真や映画など、視覚的なものの記憶によっていることが明らかになるかもしれません。

わたしたちが記憶に求めるこうした視覚上の助けを、子どもたちは、絵本に求めているわけです。ボストンの町を知らない子でも、『かもさんおとおり』をたのしめるのは、マックロスキーの絵があるから、中世のドイツのお城を知らない子でも、『ねむりひめ』の世界を生き生きと心に描くことができるのは、ホフマンの絵があるからです。しかも、これらの絵本に接した子どもたちは、のちにボストンを舞台にした別の話を聞いたり、中世のドイツの城を舞台にした別の物語を読んでも、この絵本の絵を頼りに、それらのお話や物語を映像化するようになります。絵本の絵は、それを読むとき、子どもの助けになるだけでなく、その記憶がずっとあとまでその子の映像づくりに役立つわけです。そのことを考えると、絵本の絵が、正確で美しいことがどんなに重要かわかるでしょう。

ところで、直接自分で知り得る以外の世界について、わたしたちが映像を描くことができるのは、知識だけによるのではありません。想像力の働きにもよります。肉眼ではどうしても見ることのできない人魚でも、心の目に見える姿として映るのは、わたしたちに想像力があるからです。②経験や知識の延長上に、想像力によって、その限界を越えた世界をも描きたのしむことができるのは、なんとすばらしいことでしょう。しかも、この想像力も、また、絵本の絵によって強められ、育てられるものなのです。

（松岡享子『えほんのせかい　こどものせかい』より）

問一　本文の内容を、流れに沿って会話で次のようにまとめました。A～Fに当てはまる言葉を文章中から指定の字数でそれぞれ書き抜いてください。

修君：この文章を読んでみて、子どものころにたくさん絵本を読むことで［A（八字）］という習慣がつくことを実感しました。

先生：そうですね。わたしたちはたいていのことを［B（三字）］してとらえています。しかし、大人になるとある程度の［C（五字）］があるから、自分で映像を生む力が身に付きます。

ただ、物事が、自分の直接の経験から離れていっても、［D（八字）］を活用すれば、直接自分の知らない世界のことについても何らかの映像を描くことができるようですね。

修君：大人になっても、過去に見た［E（九字）］による視覚上の助けを、子供は絵本に求めていますね。私たちは、絵本を通して自分の世界を知らないうちに広げていたようです。

先生：そうですね。それこそが、［F（三字）］によるものです。

問二　――線部①「そう」とは具体的にどのようなことでしょうか。三五字以内で答えてください。

問三　――線部②「経験や知識の延長上に、想像力によって、その限界を越えた世界をも描きたのしむことができる」のように、物事を想像するためには現在そして過去の経験や記憶、知識が必要となります。次の文は【Ⅰ】あなたが身近でないものを思い出すとき、【Ⅱ】どのような知識や視覚的な記憶、経験をもとに、【Ⅲ】どのような光景を想像したかを空らんで表しています。

私は［　Ⅰ　］とき、［　Ⅱ　］をもとに、［　Ⅲ　］。

（1）　次の①②の問いに答えてください。

①『【Ⅰ】東北地方を襲った台風のニュースを見た』となる場合、【Ⅱ】と【Ⅲ】に当てはまる組み合わせを【Ⅱ】はア～ウ、【Ⅲ】はエ～カの中から一つずつ選んでください。

ア　台風は気象庁から固有名がつけられることがあるということ
イ　地理の授業で学んだ都道府県の特産品
ウ　台風の目が熱帯低気圧の雲の渦巻きの中心部にできるという知識
エ　農家の人々が受ける被害を想像した
オ　今後の日本の気象変化が激しくなると想像した
カ　台風の巨大さを想像した

②『【Ⅱ】テレビで見た観光地の映像や、教科書で見た写真』となる場合、【Ⅰ】と【Ⅲ】に当てはまる組み合わせを【Ⅰ】はア～ウ、【Ⅲ】はエ～カの中から一つずつ選んでください。

ア　修学旅行の行動計画を立てる
イ　テレビでバラエティ番組を見た
ウ　小さい頃、家の隣の神社を訪れた
エ　日本の経済の破綻を想像した
オ　写真家になった自分を想像した
カ　現地での行動や、きれいな景色を想像した

（2）豊かで平和な生活を送ることができる日本に住んでいると、地球環境の悪化や国家間の不平等について直接感じる機会は少ないでしょう。文章の内容（1）の内容を踏まえて「これからの地球のあり方」について、以下の条件やきまりに従ってそれぞれ述べてください。

【条件】次の二段落構成で書くこと。

・次のSDGsの一七個の目標の中から、あなたが最も考えなくてはいけないと思うものを、一つ選びその番号を書いてください。

・第一段落には、選んだ目標に関して、日本や世界でどのようなことが取り組まれているか、書いてください。（一〇〇字以上一六〇字以内）

・第二段落には、第一段落で書いた内容をもとにして、あなたが、選んだ目標の達成をするために、具体的に今後どのような形で貢献できるか書いてください。（一五〇字以上二〇〇字以内）

【きまり】

・題名は書かず、最初の行から書き始めます。
・各段落の最初の字は一字下げて書きます。
・行を変えるのは段落を変えるときだけとします。
・、　や　。　や　」　などもそれぞれ字数に数えます。ただし、これらの記号が行の先頭に来るときには、前の行の最後の字と同じマス目に書きます（マス目の下に書いてもかまいません）。
・。　と　」　が続く場合には、同じマス目に書いてもかまいません。この場合は　。」　で一字と数えます。
・段落を変えたときの空白のマス目は、字数として数えます。
・最後の段落の残りのマス目は字数として数えません。

令和四年度　修徳中学校　入学試験　解答用紙〈総合学力テスト〉　二月一日午後実施

※志望クラスに○をつけてください。

※
特進
普通

受験番号

氏名

一

F	D	A

E	B

C

二

35

三(1)

①
Ⅱ
Ⅲ
②
Ⅰ
Ⅲ

三(2)

番号

360　300　200　100

【解答】

問一　A：絵でものを考える　B：映像化　C：経験や知識　D：間接的に得た知識
E：視覚的なものの記憶　F：想像力

（各5点×6　計30点）

問二　⑥視覚に訴えるものの助けを借りなくても⑧頭の中で映像化できること。（14点）
※『こと。』で終わっていなければ1点減点）

問三

(1)　①【Ⅱ】イ【Ⅲ】エ
②【Ⅰ】ア【Ⅲ】カ

（各8点×2　計16点　①②それぞれ完答）

(2)　左記参照

（40点）

採点基準

① 第一段落に「選んだ目標に関して、日本や世界でどのようなことが取り組まれているか」が書かれているか。8点

② 第一段落で書いたものを踏まえて、第二段落で、自分自身が主体的に実践する貢献内容が書かれているか（主体的でないものは減点4）。8点

③ 第二段落で書いた貢献内容が現実的なものであるか。4点

④ 読み手が内容を補ったり推測したりする必要のない説明ができているか。7点
※対象は大きな内容（論理）の飛躍に限り、単語・文法など表現上の間違いは含まない（⑥の範囲扱い）。

⑤ 答案用紙の使い方が正しいか。5点
※一か所につき減点1でカウントする。

⑥ 字数制限が守られているか。3点
※指定字数不足、超過ともに0点とする。

⑦ 表記や表現が正しいか。5点
※一か所につき減点1でカウントする